

# 瀬田川プランクトン調査結果速報

～ 第6報 ～

**NEW** 2004年1月からピコ植物プランクトン情報を追加しました。

滋賀県立衛生環境センター  
琵琶湖水質担当  
平成16年5月10日

## 1. 最も数が多かった種類（優占種）

植物プランクトン第1優占種



*Cryptomonas* sp.  
(クリプトモナス)  
褐色鞭毛藻綱

体は長楕円であり、頂端は少しへこんで消化道を形成している。等長の2本の鞭毛を持つ。通常2個の大きな葉緑体を持ち、その色は黄色、褐色、赤色、赤褐色などさまざまである。

動物プランクトン第1優占種



*Polyarthra vulgaris*  
(ハネウデワムシ)  
輪虫類

体は四角く、横に鳥の羽状の付属物が4ヶ所付いている。前部に2本の触角がある。

コメント

植物プランクトンは総細胞数としては少なかったが、引き続き褐色鞭毛藻のクリプトモナスが最も多かった。淡水赤潮の原因となるウログレナは今週も見られなかった。しかし、本日の赤潮パトロールの結果では、琵琶湖大橋より北の水域で9,300細胞/ml(32群体)と多く計数された。動物プランクトンは、ハネウデワムシとスナカラムシが多かった。ピコ植物プランクトンは少し減少した。

## 2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

### (1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
輪虫類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	380

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
繊毛虫類	<i>Codonella cratera</i>	370

\* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

# 瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

琵琶湖水質担当

平成16年5月10日

第6報

## (2) 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(黄鞭) <i>Pseudokephyrion conicum</i>	30		
(黄鞭) <i>Ochromonas</i> sp.	30		
(黄鞭) <i>Pseudopedinella</i> sp.	30		
(珪) <i>Melosira varians</i>	20		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	40		
(珪) <i>Diatoma vulgare</i>	11		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	33		
(珪) <i>Cocconeis</i> sp.	10		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	100		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	40		
(緑) <i>Chlamydomonas</i> sp.	10		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	90	25.4	6.5
(珪) 珪藻綱	114	32.2	36.4
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	140	39.5	55.1
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	10	2.8	2.0
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細 胞 数	354	総体積 ( $\mu\text{m}^3$ )	3.21E+05
種 類 数	11		

注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)

ただし\*印の種は群体数(群体/ml)

注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種

数字は各綱ごとの占有率(単位:%)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から

試験的に推定した概算値である。

## (3) 見つかったピコ植物プランクトンとその数(細胞数)

ピコ植物プランクトン数	5月10日 細胞数/ml
藍藻類 <i>Synechococcus</i> sp.	62,000

注1) プランクトンを大きさ別に分類したとき、大きさが0.2~2 $\mu\text{m}$ (1 $\mu\text{m}$ は1mmの1,000分の1)の最も小さなランクのものをピコプランクトンと呼んでいます。この中で光合成色素を持つものをピコ植物プランクトンと呼んでいます。ピコ植物プランクトンは細菌と同じくらい小さいので、落射蛍光顕微鏡を用いて観察し計数します。